

都市地域の活力強化に係る調査検討(概要)

平成 2 3 年 1 0 月

国土交通省国土政策局都市・国土政策課 作成
国土交通省国土政策局都市・国土政策課 編集・校正

出典：都市地域の活力強化に係る調査検討業務報告書
(平成 23 年 10 月 財団法人 森記念財団 都市戦略研究所)

調査の概要

本調査は、森記念財団が2010年に作成した「世界の都市総合力ランキング Global Power City Index 2010」(GPCI-2010)の調査結果を活用しつつ、広島を対象としてGPCI-2010に対応した指標を収集、スコアを算出し広島の都市力を評価している。GPCI調査対象となっている世界の主要な35都市の評価結果に対応した広島の評価を実施することにより、本調査では世界のグローバル都市との比較の中での広島の位置づけを明らかにし、その都市力を分析している。

世界主要都市35都市の総合力と比較

広島都市圏の立ち位置 (3.0位相当)

第1グループ

1	ニューヨーク	322.6
2	ロンドン	
3	パリ	
4	東京	300.3

第2グループ

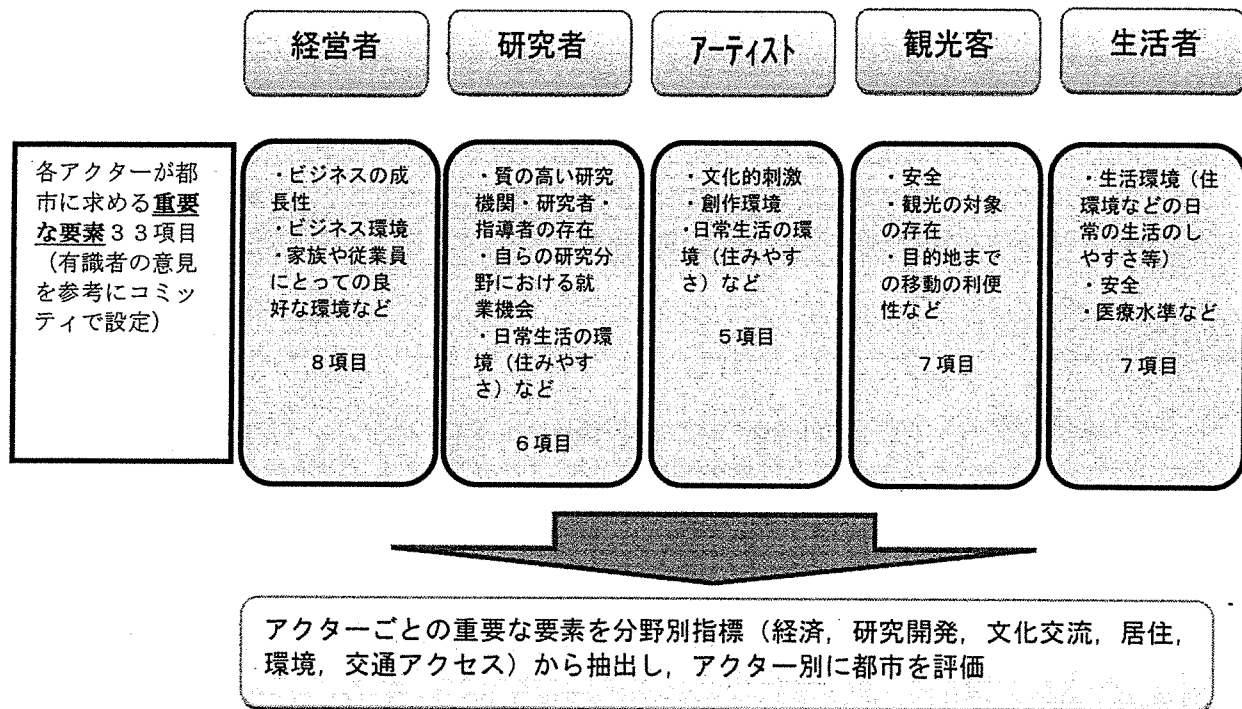
5	シンガポール	244.2
6	ベルリン	
7	アムステルダム	
8	ソウル	
9	香港	
10	シドニー	
11	ウィーン	
12	チリッヒ	
13	フランクフルト	
14	ロサンゼルス	
15	マドリッド	

第3グループ

27	ミラノ	184.2
28	福岡	181.9
29	台北	
	【30相当】 広島	171.5
31	クアラルンプール	
32	バンコク	
33	モスクワ	
34	サンパウロ	
35	ムンバイ	
36	カイロ	137.6

- ・世界の主要都市との比較において、広島都市圏を比較対象として設定
(広島市、呉市、大竹市、東広島市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町)
- ・グループ分けは、各都市のスコアに応じて設定
- ・第1グループは、総合スコア300点以上、第2グループは、ほぼ200点以上、
- ・第3グループは、ほぼ200点の上海と若干開きのあるミラノを境目として、ミラノ以下を設定

アクター別指標



比較対象都市の選定

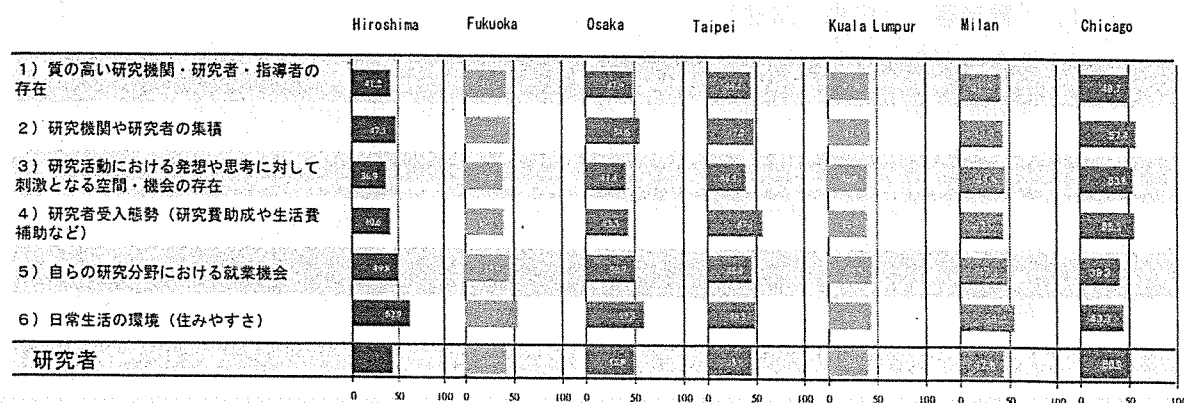
広島**の強みと弱みを明らかにするため、テーマと比較対象とする都市を絞って分析を行った。**

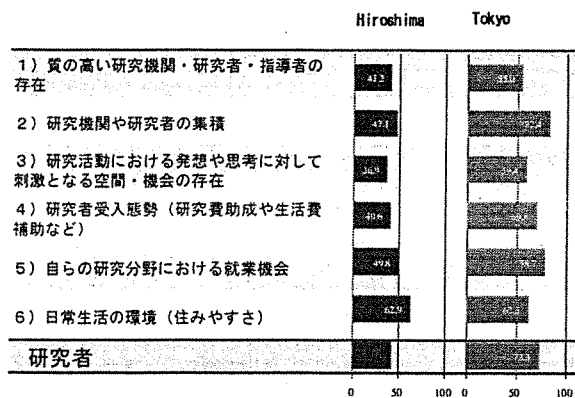
＜比較対象都市の選定＞

- ・ 総合ランキングで広島に近い都市あるいは直近の上位都市であること、都市の人口規模が概ね 100 万人台中盤～200 万人台の都市であることを総合的に勘案し、下記の 6 都市を比較対象都市として選定した。

福岡，大阪，台北，クアラルンプール，ミラノ，シカゴ

- ・ また、国内トップ都市である東京との都市力の差を明らかにする観点から、比較対象の参考都市として東京も選定した。



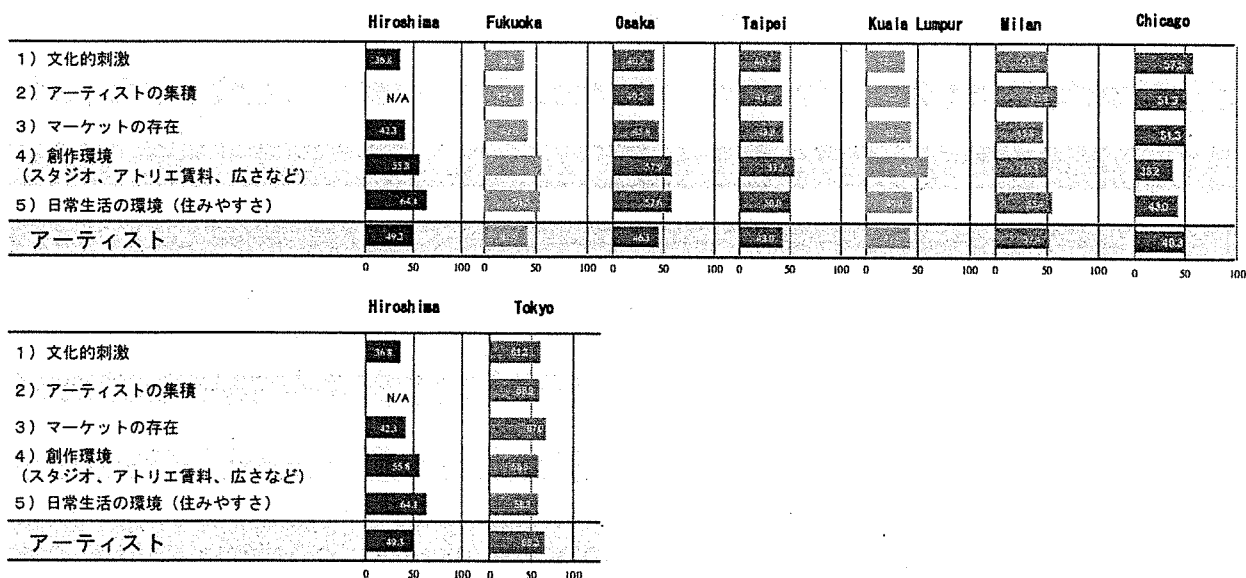


3. 「アーティスト」《広島：14位》

<アクターが重視する要素による偏差値比較分析>

順位では35都市の中で中間より上に属する14位相当と健闘しているが、1位のパリをはじめトップ都市とのスコア差が大きいため、偏差値では50を切っている。「創作環境」や「日常生活の環境」では高い評価を得ているものの、アーティストの仕事自体の重要要素である「文化的刺激」や「マーケットの存在」については、ミラノやシカゴと比較すると大きな差がついている。

東京との差を見ると、特にマーケットの大きさに差があるのが目立つ。

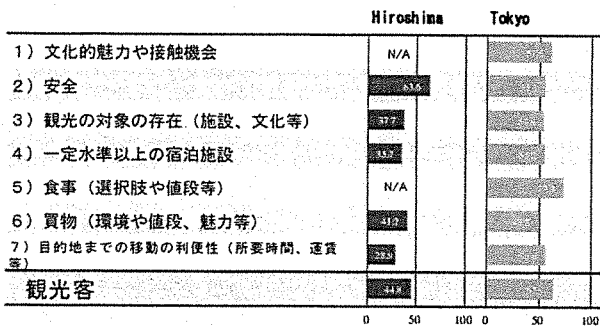
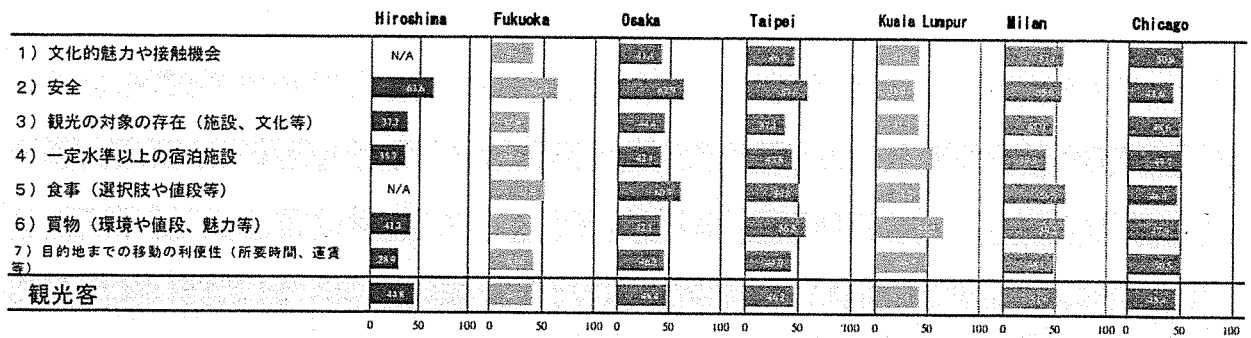


4. 「観光客」《広島：23位》

<アクターが重視する要素による偏差値比較分析>

都市間で要素ごとに評価が分かれ、都市ごとに特性がよく出ている結果となっている。広島は、「安全」で他都市を大きくリードしている。他の国内都市も同様の強みを発揮している。一方で広島は、「観光対象の存在」や「宿泊施設」の評価が低く、「目的地までの移動の利便性（所要時間、運賃等）」については圧倒的に他都市から後れをとっている。

観光客にとっての魅力の創出と利便性の確保が大きな課題であることが明らかになった。



5. 「生活者」《広島：17位》

<アクターが重視する要素による偏差値比較分析>

広島で唯一偏差値 50 を超えているアクターである。分野別での「居住」や「環境」で高い評価を得ている広島であるが、都市機能の総合的な観点に基づき「生活者」の視点に立った評価では、「余暇活動」や「医療水準」などに課題が存在することが明らかになった。

